

江蘇省常州への旅

真田紀子

昨年の夏ごろに中国語の講師である劉樊艶が、中国で結婚式を挙げると聞き、ぜひ私たちも参列したいと申し出ました。

お相手である胡滿意さんも知っているし、中国の結婚式も体験してみたいし、受講生3人の意見は一致していました。

樊艶は、“本当に参加してくれるの”と半信半疑でしたが、私たちの間では行く気満々でした。

日程は12月26日にLCC春秋航空で高松から上海へ、上海から高速鉄道で常州。翌日常州観光の後、結婚式の会場になるホテルへ移動、28日に結婚式その日に蘇州へ移動してホテルに2連泊、29日30日と蘇州観光の後、上海へ移動して空港近くのホテルに宿泊。31日に帰国というスケジュールになりました。

このスケジュールの決定についても紆余曲折があり、なかなか意見をまとめるのは大変でした。しかし、飛行機の席は早めに取りえないということで、ネットで予約したのが、記録をみると、10月3日に往復のチケットを予約していました。これも一人一人で予約を完了させました。行きがスプリングクラス18,440円、空港使用料1,840円、燃油サーチャージ6,390円。帰りがスプリングクラス20,490円、空港使用料0円、燃油サーチャージ7,000円、PSFC540円、PSSC250円、国際観光旅客税1,000円。合計55,950円。

PSFCとは、旅客サービス施設使用料のこと、PSSCとは、旅客保安サービス料のことだそうです。予約申し込みページでは、無料お預け手荷物の重量が30キロ、20キロ、なしと3段階で選べるようになっているのですが、現実には申し込みしてみると一番高い30キロの席しか申し込めないのです。日本語ページからしか私たちは申し込むことができないので、仕方ないことなのでしょう。

中国語ページから申し込むと、安い席を取れるかと思えます。

江蘇省常州への旅 その②

中国へ入国するのにビザが必要なので、取らなければならないと調べてみると、大阪の総領事館まで行かなくてはならない。

とても無理なので、華僑華人総会に頼むことになり、必要書類や写真・パスポートなど、劉樊艶の協力を得てそろえ提出しました。そして、華僑華人総会でビザが添付されたパスポートを受け取って、手数料22,750円を支払ったのが、11月5日、なんと11月30日付で、ビザが不要となるなんて、もっと早く教えてよ！これもしかたがないことですけどね。

12月26日、現実には飛行機に乗ったときに、往復とも私たちには一番前の席が割り当てられていました。ということは、私たち以外は、全員中国人？

春秋航空にはプレミアムエコノミー席もビジネス席もありません。

ここからいよいよ旅の当日の話です。

岡山駅発8時24分マリンライナーで高松へ、9時18分着。そのまま空港リムジンバスで高松空港へ約40分で到着。春秋航空で登場手続きをするのに、春秋航空のブースに並ぼうとするが、列がよくわからない。早すぎて係員が到着していない。15,6分すると係員がやってきて列を整理して、エアソウル韓国仁川空港行と、春秋航空上海行に分かれることが出来ました。

30分ほどで搭乗手続きが完了。スーツケースにウイスキーとグラス入りの箱を2つ入れていたので、20キロオーバーになるかと心配していたところ、係員に“30キロまでオーケーですから全然大丈夫ですよ、席も一番前の席です”と言われ、初めてそういう席に申し込んだことを知りました。

ほっとして次はお腹がすきました。空港にあるうどん屋で3人とも肉うどんを食べて、やれやれです。

12時30分発ですから、1時間前には入りたいところですが、すでに30分前、飛行機に乗ると、座席の上の荷物入れが満杯で背中へのバックを入れる隙間がありません。でも男性のCAが我々の荷物を何とかねじ込んでくれました。

やっと出発です。上海まで2時間半のフライトです。飲み物のサービスはありません。でも席の前のポケットに300mlの水のペットボトルが入っていました。出国ゲートを通過後お茶を買って備えていたので、拍子抜けしました。エコノミー症候群が怖いですからね。

その③

飛行機で1時間ほど経過したころ、男性のCAが前

1039

2025/2/1

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net>
 メールアドレス
rizhongyouthaohehuiokayama@yahoo.co.jp



に立ち、マイクを持って機内で販売する商品の説明を始めて、延々と優に30分は続けました。その上私の左隣の乗客の男性がイヤホンを入耳して、歌いだしたのです。最初は念仏でも唱えているのかと思いましたが、やはり歌でした。そのまま上海に到着するまで、歌い続けていました。この場合どうすればよかったのか、どうしても我慢ができない音ではなかったのも、念仏だと思い寝ることにしました。

いよいよ上海浦東空港に到着です。入国審査の前に、パスポートと指紋を登録する機械でチェックをするのですが、なかなか上手くいきません。小川さんが最初に上手くいき、結局その機械で3人とも登録できました。

次は入国カードです。春秋航空では機内で入国カードは配られませんでした。

カードに記入して、入国審査の列に並びます。かなり多くの審査ブースがあり、5つぐらいのブースを担当する係官が、列に並んでいる人々をグループごとに振り分けてくれるので、かなりスムーズに進んでいきます。

無事に通過後、今度はスーツケースを受け取るターンテーブルに向かいます。ここまでかなり手間取っているのに、荷物がすでに出ているのではと思いましたが、まだでした。小川さんと田中さんの荷物は出てきましたが、私の荷物が出てきません。そのうち同じ荷物が回り続けるようになり、妙だなと思っていましたが、トイレに行こうと荷物の出てくる方向に移動すると、なんと、ちょうど陰になって見えないところに、私のスーツケースが置いてあるではありませんか、間違えて下ろした人は、元に戻してね。

やっと空港を出られるので、記念に写真を撮りました。新年の飾りつけがしてありました。

出口に向かう途中に外貨両替の機会が置いてありましたので、一人1万円ずつ交換することにしました。ところが、旧札は交換できるのですが、新札は認識してくれません。仕方ないですね。

今度はタクシーを探して、出口へと向かいます。そこで、一人の男性に声を掛けられ、タクシーというと、こちらについて来

いと言われ、ついていきました。後でわかったのですが、3人で大きなスーツケースを持っていると、1台のタクシーでは無理だということを知らなかったのです。

老華僑は黙らない

2025年1月19日の日曜日に、国際交流センター地下のレセプションホールで、標記の会が行われた。

標記のタイトルは映画のタイトルでもあるが、出演者でもある林伯耀さんも同席されていて、直接お話を伺うことができた。

武田倫和監督からのお話もあり、映画製作費のカンパ要請もありました。

映画はまだ完成版ではなく、パイロット版としてあるが、中身はじっくり考えさせられる内容であった。

林さんが花岡事件の首謀者とされたゴン・ジェン氏と何度か会い、また、新美隆弁護士の写真が映し出される。ゴン・ジェン氏は、裁判所による和解金を受け入れることを拒んでい

る。新美弁護士はこれでよかったのかどうか、忸怩たる思いであることをにじませている。

しかし賠償金ではなく、和解金として鹿島建設から支払われた5億円が、中国紅十字会に信託され、強制連行され被害にあった人々に保障されることになった。

ここで花岡事件について少し説明をしておく。
“1945年6月30日、国策により中国から秋田県北秋田郡花岡町(現大館市)へ強制連行され鹿島組(現鹿島建設)の花岡出張所に収容されていた986人の中国人労働者が、過酷な労働や虐待による死者の続出に耐えかね、一斉蜂起、逃亡した事件。警察や憲兵隊により鎮圧・逮捕され、中国人指導者は有罪判決、鹿島組現場責任者も終戦後、戦犯容疑で重刑を宣告(のち減刑)された。事件後の拷問を含め、中国人労働者のうち、45年12月までに400人以上が死亡した。

その後日中国交回復により、元労働者の生存者と遺族の計11人が日本で初めて鹿島建設を相手に損害賠償を求めて訴訟を起こした。東京高等裁判所が和解案と提示、2000年11月鹿島は企業としても責任を認め、原告11人を含む986人全員の一括解決を図るため5億円の基金を設立することで和解が成立した。(ウィキペディアから抜粋)“

吉田知子

次回の新聞放送作業は
2月13日(木)午前10時半か
ら民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

犬飼
河井
真田

